



# 主な研究内容と各研究機関の役割分担

## 【海外野菜遺伝資源の特性解明】

育種上の課題	対応する研究内容	H26担当
<b>(1) キュウリ</b> ① 地球温暖化により拡大する微小昆虫媒介性ウイルス病対応 ----- ② ブルームレス台木使用により拡大する糸状菌病(褐斑病等)抵抗性の評価 ----- ③ 多様性に富んだ育種素材の提供	ウイルス病抵抗性の評価 ----- 糸状菌病(褐斑病等)抵抗性の評価 ----- DNA解析による多様性の評価	野茶研 筑波大 岡山大 愛知県 ベトナム <sup>*1</sup>
<b>(2) メロン</b> ① 主要産地で発生が拡大している病害対応 ----- ② 多様性に富んだ育種素材の提供	つる割れ病・スイカ緑斑モザイクウイルス等の抵抗性評価 ----- DNA解析による多様性の評価	野茶研 茨城県 岡山大 弘前大 カンボジア <sup>*2</sup>
<b>(3) カボチャ</b> ① 強度抵抗性素材が未発見の重要病害対応 ----- ② 高貯蔵性品種の開発 ----- ③ 多様性に富んだ育種素材の提供	うどんこ病抵抗性の評価 ----- 貯蔵性の評価 ----- DNA解析による多様性の評価	北農研 筑波大 ベトナム
<b>(4) ナス</b> ① 温暖化により被害増加が懸念される病害対応 ----- ② アジア地域で壊滅的な被害が見られる虫害対応	青枯病等抵抗性の評価 ----- 線虫抵抗性の評価	野茶研 九沖研 新潟県 愛知県 岡山県 高知県 ラオス <sup>*3</sup>
<b>(5) トウガラシ属(ピーマン等)</b> ① 温暖化により被害増加が懸念される病害対応 ----- ② 機能性成分や色素成分に特色のある新規育種素材の提供	青枯病等抵抗性の評価 ----- 機能性成分・色素成分含量の評価	野茶研 宮崎県 岡山大 カンボジア

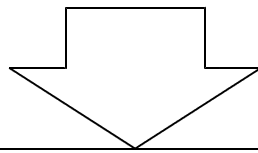
\*1 ベトナム農業科学アカデミー

\*2 カンボジア農業研究開発研究所

\*3 ラオス国立農林業研究所

【海外穀物遺伝資源の特性解明】

育種上の課題	対応する研究内容	H26担当
<b>(1) イネ</b> ① 高温障害や冷害対応 ② 気候変動に伴ういもち病対応 ③ 収量に関する遺伝特性の把握 ④ 機能性成分高含有系統の作成 ⑤ 多様性に富んだ育種素材の提供	出穂遺伝子型の評価 いもち病抵抗性の評価 亜熱帯地域での栽培特性の評価 オリザノール等の成分評価 DNA解析による多様性の評価	生物研 JIRCAS 作物研 ラオス カボジア
<b>(2) アマランサス</b> ① 幼苗期の低温障害対応 ② 子実用・葉菜用品種の開発 ③ 多様性に富んだ育種素材の提供	幼苗期低温耐性の評価 穀粒の栄養成分の評価 葉菜用途適性の評価 DNA解析による多様性の評価	筑波大 生物研 インドネシア <sup>*4</sup> /スリランカ <sup>*5</sup> (想定)
<b>(3) ソルガム</b> 多様性に富んだ育種素材の提供	DNA解析による多様性の評価	生物研 ラオス



<b>成果目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未収集海外植物遺伝資源の特性解明：<u>1万点弱</u></li> <li>・ DNAマーカー選抜育種等に活用できる標本コレクションの作成：<u>6作物</u></li> </ul>
-------------	--

【我が国では増殖が困難な熱帯地域の植物遺伝資源の増殖手法等の開発】

対象とする植物遺伝資源	主な研究内容	担当
① 難増殖性イネ ② アマランサス ③ 難増殖性カボチャ ④ 難増殖性トウガラシ属 ⑤ 難増殖性メロン	温室内で効果的に栽培し採種するための手法（短日処理、低温処理、植物ホルモン処理等）を検討し、マニュアル化する。	生物研 野茶研 北農研 岡山大

\*4 インドネシア国立農業生物工学遺伝資源センター

\*5 スリランカ農業局